



川口波止場の近くには外国人の住む居留地もできました。

川口波止場「大阪名所三十六景」より（神戸市立博物館蔵）

● 明治はじめの川口波止場



左側は汽船のえんとつ
着物すがたの人が多い

● みおつくし

船が安全に通れるように、
航路を示す目じるしとし
て立てられた標識。今は
大阪市の市章（市のしる
し）になっている。

● なにわひゃっけい てんぼうざん 浪花百景「天保山」



(2) 開港のころのようす

① 大阪港が開かれる前のようす

江戸時代の日本は「鎖国」といって、自由に外国との行き来や物の売り買いをすることを200年以上も禁止してきました。しかし1854年（嘉永7年）にはアメリカ、続いてイギリスやロシアとも条約を結んで開国し、人の行き来や物の売り買いをはじめることになりました。そして港も開くことになり、1867年（慶応3年）、安治川上流の川口波止場（今の中央卸売市場の川向い）に運上所（今の税関）をつくり、翌年の1868年（慶応4年）7月15日、大阪港として開港しました。

しかし、安治川は洪水のたびに土砂がたまって川底が浅くなって、大きな船が入れなくなり、沖合で小さな船に貨物を積みかえて、港に運ばなければな